

それを厳格に運用しておりますけれども、以前は長井市を含めてですけれども、いわゆるわたり、主任であっても例えば5級までいくとか、そういった運用があったわけですが、そういうことはまかりならないということで、長井市はかなり、もう10年以上前からですか、1職1級制にしようということで、特例の給料表をつくっておりました。在職職員がいたわけなので、その部分は不利益、不遡及の原則がございますので、級ごとの給料表が長くなった給料表、それが在職職員がいなくなるとだんだん短くなっていくわけですが、そのいわゆる残り、残りというか名残といいますか、そういうことで給料表自体は人勧ということでつくってはおりますけれども、職員の任用等で給料表の上位の号給に給料の格付される職員はまずほとんどいなくなるというような状況でございます。

○**渋谷佐輔議長** 7番、渡部秀樹議員。

○**7番 渡部秀樹議員** 課長、答弁ありがとうございます。納得がいきませんでした。なかなか100を超す給料表、私見たことないもので、予算のときに聞けばよかったですけども、この場で聞かせていただきました。在職職員がいることで長くなっていると。私も旧花山村というところにおりまして、その1人の職員のための給料表が長くなってるの見たこと、そう言えばありますね。1つの等級だけやたら長くてほかは何か20とか30ぐらいしかないというのを見たことありました。

ちょっと難しい答弁ありがとうございます。以上をもちまして一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○**渋谷佐輔議長** ここで昼食のため暫時休憩します。再開は午後1時といたします。

午前11時59分 休憩

午後 1時00分 再開

○**渋谷佐輔議長** 休憩前に復し、午前に引き続き会議を再開いたします。

なお、遠藤健司副市長から早退させてほしい旨の届け出があり、許可いたしましたので、ご報告いたします。

それでは、市政一般に関する質問を続行いたします。

梅津善之議員の質問

○**渋谷佐輔議長** 次に、順位13番、議席番号9番、梅津善之議員。

(9番梅津善之議員登壇)

○**9番 梅津善之議員** 穏やかな冬、そして春の陽気を感じさせるようなきょうこのごろでございます。一般質問、最後から2番目となりますけども、お疲れのところ、ぜひ大事な答弁をいただきたいものだなと思っております。

さて、ことし私は平野小学校のスキー授業に指導者として何年ぶりにスキーを教えに行ってみました。いつもは補助員としてロープ塔の脇に立って、危なっかしいような子供の手助けをすることを何年か繰り返してきたわけですが、ことしは特に指導してくださる父兄の方が少なくて、ぜひにということで頼まれてやってみました。実はこう見えても幼少のころは市民スキー大会並びに西置賜大会など選手としてスキー大会に出場して、ゲレンデを荒らしてきたものでございました。たった2時間のスキー授業でございましたけども、非常に親として情けない話で大変疲れて足が動かなくなっておりました。子供たちの成長と私の体の衰えを痛感させる1日、たった2時間ではございました

けども、痛感させる2時間でありましたし、老いては子に従えというのを改めて感じた次第でございました。

さて、まず、1番目の一般質問に入ります。1番目は市内の雇用状況はということです。

リーマンショックから8年、東日本大震災から5年目の月日が過ぎようとしております。その間、米国の中央銀行、FRBによる利上げや日本国内では日本銀行によるマイナス金利の導入など、経済は目まぐるしく変化しております。FRBのイエレン議長は失業率を重視しているが、雇用の増加数など雇用面では問題ないと判断しています。賃金の上昇率に注目して、これから賃金が上がれば景気はよくなり、物価も上昇するという考えを示しております。アメリカ国内でも金融市場や景気に対してネガティブな影響も想定されていますが、十分な分析と確認の上に実施されたものと考えております。

経済学者の宿輪純一氏によれば、ことしから来年にかけて近年になく世界経済、金融に歴史的で重要なトピックが多いとされ、4つ上げられております。1つ目は米国の中央銀行、FRBによる今後の利上げ、2番目は日本の経済政策の成長戦略の転換、3番目は中国の経済の行方、4番目は資源価格と新興国経済の低迷とされております。中でも日本経済の成長戦略は転換期であります。国内では大手企業の台湾企業の買収、会計処理問題を抱える大企業など、決して景気がいい状況ではないと考えております。さらにアベノミクスの第1ステージとして大胆な金融政策、機動的な財政政策、民間投資を喚起する成長戦略の3本の柱から、第2ステージとして希望を生み出す強い経済、夢をつなぐ子育て支援、安心につながる社会保障の新たな政策を打ち出されております。国の政策に合わせて進められることはもちろん大切なことだと考えますし、今こそ長井らしさが求められていると考えております。

さて、ハローワーク長井管内で27年12月現在での求人倍率として、新規求人倍率1.74倍、前年度同月比を0.3ポイント上回った。求職者数は693人と前年同月比を6.9%下回り、有効求人倍率は前年同月比を0.09下回り1.10倍となっております。長井管内の雇用情勢は穏やかに改善が続いているとみなしております。産業別では建設業、前年同月比69%増、製造業では50%増、医療・福祉関係では21.8%と改善が見られております。

そのような中、平成25年7月にスタートしました長井市雇用創造協議会ではありますが、さまざまなセミナーや商品の開発、長井ブランドの確立事業、地域資源を生かした加工、商品開発事業、長井らしさの体験観光事業など、多岐にわたって検討されたものと思っております。中でも商品開発に当たっては、もっちいパオ、馬肉ラーメンまんじゅう、ひみつのSOY+豆、あやめの根っこ、くぁね菓`など、さまざまな商品が開発されたことと思っております。

長井の農産物を生かした6次産業化や地域おこし、雇用創出につなげてほしいと考えます。まさにこれからが大切だと思います。このようなことから、市長にはグローバルな視点から市内の雇用状況をお聞きします。商工観光課長からは雇用創造協議会の具体的な成果や商品開発されたもののこれからなどのお考えをお聞きします。

2番目の質問であります。市内の河川敷の整備の考え方です。

本年3月に長井南バイパスが完成、供用開始となる予定となっております。長井市にとっては南の玄関口としてすばらしい道路が開通しようとしております。

さて、その河川敷の考え方であります。かわまちづくりの考え方として、地域の景観、歴史・文化及び観光という資源や地域の創意としての知恵を活かし、地方公共団体や地元住民と

の連携で立案された実現性の高い河川や水辺の整備、利用を行うかわまちづくりの推進に対して、河川管理者が支援する制度、基本的事項を定めることにより良好なまち空間と水辺空間の形成を円滑に推進することを図ることを目的としております。

かわまちづくりの定義の中には、河川空間と融合が図られた良好な空間形成を見通す取り組み、推進主体として市町村が作成することになっておりますし、この要綱においてソフト支援とは、かわまちづくりにおいて地域づくりのフォローアップと河川敷地の占用許可準則による特例措置や河川敷地等の構造令の適用緩和と推進主体の提案に基づき、河川管理者が判断し、実施する施策となっております。ハード支援としては、かわまちづくりにおいて河川管理者が推進主体、市町村と連携してまちの空間に融合する河川空間を創出するために、治水及び河川利用上の安全・安心にかかわる河川管理施設を整備することとあります。

対象河川としては、当該市町村の1級河川や2級河川、準用河川とあります。認定要件の中には地域の景観、歴史・文化の環境及び観光に資する整備等の関連において、歴史的風致維持向上計画、観光圏整備実施計画をするなど、認定要件があるとされております。2番目には、都市再生整備計画、地方再生計画などによる国による認定が個別法で規定されており、地域活性化や地域の振興に関する計画において、まちづくりと一体的に良好な水辺空間の整備・利用を図る必要があるとあります。3番目に、地方の元気再生事業、環境モデル都市などを国として積極的に支援する地域活性化施策に関連して、良好な水辺空間の整備、利用、活用を図る必要があるとあります。さらに4番目には、市町村が水辺空間と一体となったまちづくりを行うために、みずからが一連の区域における整備を計画し良好な水辺空間のための諸活動がなされる

等、市町村及び地域住民の水辺空間等の利活用について熱意が高い河川とあります。

以上のようなことを踏まえながら白川河川敷の利活用、さらに長井市の南の玄関口としての整備を考えるべきだと思います。地域の協議会と協力して将来の維持管理も含めて考えるべきだと思います。かわまちづくりの関連性をつけて、全体として市長からの答弁と詳細については建設課長から答弁をいただきたいと思っております。

3番目の質問でございます。各小学校の食農教育の実施とこれからの考え方はということでございます。

一つ、高島町の二井宿小学校の例を紹介させていただきたいと思っております。以前の校長先生であった伊澤良治校長先生が児童や先生と一緒に学校園を利用して給食に使ってもらえる、給食に使うような野菜を各学年ごと栽培したということをお聞きしております。野菜をつくる大変さや難しさを子供みずから学び、それをみずからつくった野菜を学校給食、これは二井宿小学校は自校給食でありますので、非常に利用が安易にできるということでございました。ここでつくったものを、小学校の生徒がつくったものを食材として提供するというような授業です。季節や気候によって植物が育たなかったことや何度も植えかえたこと、命の大切さやものをつくる大切さ、そしてそれを食べるということ子供たち自身がみずから学び、感じ、そして喜んだというすばらしい事例でありますし、食べられなかった野菜が、自分がつくったものを食べられるようになったなんていう事例もお聞きいたしました。

そのようなことを踏まえ、当地区各小学校での食農教育の実態とこれからの教育長にお伺いしたいと思っておりますし、さまざまな形で取り組まれている成果をどう感じておられるか、そして私はぜひ積極的に取り組むべきと思っておりますし、生産者の思いや生産する大変さ、気候や季

節によって違うものづくり、生命力の弱さを体験することによって、子供たちの気持ちが優しい思いを持てる子供たちに育つような気がしてなりません。教育長の見解を求め、さらに学校給食で一部でも構わないので、つくったものが食材として提供され、みずから食べられるような機会があればありがたいものだと思います。

以上、3点お聞きして、壇上よりの質問いたします。ご清聴ありがとうございました。

(拍手)

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 梅津善之議員から3項目のご質問をいただいておりますが、私のほうから2項目についてお答えを申し上げます。

まず最初に、長井市内の雇用状況についてということでグローバルな視点から説明するよいうこととさせていただきますが、ちょっとグローバルな視点からなるかどうかですが、まずは、長井市内の雇用状況について申し上げますと、議員のほうからも詳しく分析をしていただいているとさせていただきますが、実践型地域雇用創造事業に取り組む前年度である平成24年度の状況について、まずご説明申し上げます。

事業開始前の状況は、長井公共職業安定所管内の有効求人倍率は年平均で0.74倍と、県内平均及び全国平均に比べ0.1ポイント以上低い状況でございました。当時の経済情勢については、梅津議員からもありましたように平成20年に起きたリーマンショックの影響を受けて、長井管内でも東芝ライテック株式会社の撤退、LDF飯豊工場の閉鎖などが相次ぎまして、当地域内で100名を超える雇用が失われた時期でございました。長井市では、このような厳しい雇用情勢の中で厚生労働省からの委託事業である実践型雇用創造事業に平成25年度から取り組んできたものでございます。実践型地域雇用創造事業というのは、雇用機会が不足している地域にお

いて自発的な雇用創造の取り組みを支援するもので、地方公共団体の産業振興策や国の地域再生関連施策等々と連携して雇用創造効果が高いものや地域の雇用機会を増大させる効果が見込まれる事業、こういった事業の実施を長井市雇用創造協議会に対して国から委託を受けたものでございます。

事業の実践取り組みの後、平成25年度から今年度までの状況でございますが、事業効果もあったというふうに思いますが、また全国的な景気回復基調の追い風を受けたということで、長井管内の有効求人倍率は徐々に上昇しまして、平成26年6月からほぼ1倍を超える状況になりまして、平成27年の12月時点で1.1倍まで回復してございます。求職者数で見ますと、3年前の平成24年12月時点で1,110名の求職者がおりましたが、平成27年12月では693名まで減っているという状況でございます。なお、具体的な事業成果等につきましては、商工観光課長から説明をいたさせます。

続きまして、2点目の市内の河川敷の整備の考え方はということとさせていただきます。白川右岸の築堤工事で完成した河川敷地の考え方はどうかと。また、地域の協議会との連携が必要ではないか。また、議員からも詳しく調査を、調べていただいて報告がございましたが、かわまちづくりの考え方として各協議会との連携、連帯と地域の理解と協力を得ながら進めるべきではないかという点でございます。

まず、市内の河川敷のうち、河川管理者が国土交通省となる、いわゆる国直轄の区域の整備につきましては、現在、国のほうは国土交通省の水管理・国土保全局、旧河川局という部署になるんですが、その環境政策であります川を生かしたまちづくりのうち、かわまちづくり支援制度を活用して、国土交通省の支援をいただきながら整備を行っております。これは議員からもありましたけれども、長井市では、全国一

番最初の7カ所の指定のうち、私どももその指定を受けた、いわゆる最上川のかわまちづくりということで5年間、4年間にわたって、これ整備をいただきました。これはご承知のとおり、基本的には長井橋からさくら大橋までの間の最上川の河川敷、また、そこから上流の白川のほうも直轄区域が長井、鉄橋のところ、いわゆる最上川と白川が合流して、上流の白川の鉄道の鉄橋までが国直轄の地域でございます。その河井山あたりまでの地域をいろいろご支援いただきました。一方で野川については、野川と最上川が合流して、あかしあ橋のところですね、あそこまでの距離ということで、残念ながら野川は国直轄の距離が非常に短いと。あとは上流区間については県の管轄ということになっているところがございます。

21年度から整備いただきましたかわまちづくりの最上川フットパスでございますが、地域活動の積極性や地域の個性を創出し、魅力ある地域づくりに貢献しているとして先月、国土交通大臣賞の手づくり郷土賞を受賞させていただきました。これは地元のかわまちづくり推進協議会や国、関係団体の連携協力が水辺と周辺地域の魅力向上、皆様に愛されるまちづくり活動へつながったと思うところがございます。この代表として一昨年の平成26年の山形デザインキャンペーンで、JR東日本の大人の休日倶楽部のCMで、いわゆるフットパスを取り上げていただいたということで、非常に反響がございました。

一方で白川の河川敷についてでございますが、そもそもの今回、梅津議員がおっしゃっているのは、白川築堤の際に、築堤もこれは羽越水害以来、ずっと長年要望してきたものを、平成26年度の補正で1キロ近い距離の築堤を今回していただいたということで、27年度までかかったわけですが、この際に河川敷の中にあつた農地の部分について国土交通省の判断としては、そ

の河川敷の中の水田をこれからも耕作するには樋門を何カ所かつくんなきゃいけないということで、それよりは土地を地元の方に協力いただければ購入させていただいて、そちらのほうが効率的だということで地元の了解を得て、3ヘクタール余りの土地を本来は必要ではないのに買ったということから、こういった地元の課題、課題っていいですかね、地元の皆様の悩みがあるのかもしれませんが、私ども市としては、それを国で買い上げて、市が活用するっていう前提で買い上げるということになります。

したがいまして、まず築堤の段階ではぜひ地元の皆様でお使いいただきたいということで、地区公民館にお願いしてきたということでございます。それらについて現在、地区公民館を中心にさまざまな協議をされてる、検討されているということでございますが、白川につきましては、もともとかわまちづくりの支援を受けるには、もう長井市1回受けていますので、相当程度いろんな働きかけをしなきゃいけないということで、私も今回、地元の豊田地区のほうでその活用について検討されているということから、よりそれらが地元の皆様の意向を受けて周辺を国のほうで整備いただけるようにということで、国土交通省のほうにも2回お邪魔しまして、1回は、局長までお会いして、あと担当の河川環境課長にもお会いして、この白川を含めた長井の再度のかわまちづくりの認定をお願いしたいと、これは28年度の認定です。

ですから、まだ認定になるかわからないんですが、そういったことをお願いしてきた経緯がございます。もともと白川地区については、以前から、フットパスができる前から水辺の楽校ということで、地元では水辺で遊べるわらしっ子広場という国の指定を受けて豊田小学校、地元のですね、そこがいろんな事業を行っていました。それに合わせてフットパスが国として整備をいただいた際にも、ちょっと森の河川敷の

中に林みたいなところがあったところを木製の通りなどもつくっていただきまして、それに地元でさまざまな自然環境を学ばせるということで工夫をされて非常にいい活動をされてました。

加えて、この間まで支援いただいていたかわまちづくり支援事業では、豊田のほうは河井地区のトロッコ道というところを整備していただきました。これは最上川の上流部には河井山狭窄部というのと白鷹、朝日町のいわゆる五百川溪谷狭窄部、この2つがあったんですが、その白川の河井山の狭窄部が以前は大雨になりますと、必ずあふれて大塚のほうが水浸しになったということで、それを避けるために掘ったんだそうですが、それを、掘った石をトロッコで運び出したというそのトロッコ道をフットパスとして整備いただいたという経過があります。加えて、地元の河井地区では堤防沿いに桜の堤、桜堤防、桜堤っていいですかね、並木を整備してました、自主的に。そんなことから、この3ヘクタール余りの土地を地元でも河川敷グラウンドとして運動会とか夏祭りもやっていますので、もしお使いいただけるならぜひということでお願いしているわけございまして、これは義務ではないと思います。それをやっぱり難しいということであれば、それは私ども長井市のほうで何らかの形で使わなきゃいけないというふうに思いますが、地元で使えないということであれば、これはいたし方ないと。ただし、その場合はかわまちづくりということはないということだと思います。したがって、地元の山形河川国道事務所さんのほうにいろいろお願いしていますが、地元の皆さんの利活用の計画があってこそその整備ですので、これ、したくないということであれば、それはそれでいたし方ないんじゃないかと。強要するつもりは一切ありませんので、そのように思っております。できれば、南バイパスが3月31日開通いたしますけれども、非常に目立つ地域でございますので、

河川敷については、やはり今までのところに加えて、そこも何らかの形でご活用いただければ大変ありがたいというふうに思いますか、市のほうで何かするという事は考えておりませんので、ぜひそこは誤解のないようお願いしたいというふうに思います。

私のほうからは以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 加藤芳秀教育長。

○**加藤芳秀教育長** 私には、小学校の食農教育の実態と、これからの考え方はということでご質問がございましたので、お答えしたいと思いません。

議員が、高島町の二井宿小学校の当時、伊澤校長先生の取り組みについてご紹介ありましたが、当時、私も中学校の校長として高島町で勤務しておりましたので、伊澤先生のユニークな人柄と、それから特色ある二井宿小の取り組みについては存じ上げておりました。大変すばらしい実践だったなというふうに思っています。

本市の小学校における食農教育についての取り組みでございますが、市内全ての小学校におきまして畑づくりについて実践をしております。栽培している主な作物はジャガイモ、サツマイモ、ニンジン、大根、トウモロコシなどございます。それらの自分たちで育てた作物については、学級活動の時間や高学年の家庭科、それから低学年の生活科などで調理して食べたり、また、自分の家に分けて持ち帰って家族とともに食べたりしているようでございます。やっぱり自分で育てただけに非常に愛着もございまして、友達や家族とできばえやおいしさを話題にしながら、食卓の会話も弾んで楽しい食事となっているというところでございます。

低学年では、ちょっとちっちゃ目の粒のトウモロコシからポップコーンをつくるわけですが、ちょうど私、豊田小学校にお邪魔したときに、それをつくり方している様子を見ましたけども、

本当に目を輝かせて見詰めております。ぼおんとはじけて、ぼっと膨らむわけですけども、そういうものを見て、子供たちの笑顔も一緒に何かはじけているなあというふうに思ったところでは。

ある学年では、里芋とネギを栽培して学年親子行事でそれを使って芋煮会をしたり、ジャガイモやニンジンなどでカレーをつくったりしていることもございます。

また、米づくりを教育活動、総合的な学習だと思えますけども、そちらのほうに位置づけて食農教育を進めている学校もございます。JA青年部の方々や地域の田んぼの先生の協力をいただきながら田植えから草取り、収穫、天日干しをするはせがけなどを経験しているところでございます。苗から稲穂までの成長する様子を学習するとともに、現在は機械化しているところをあえて手作業で行うことで、先人の苦労や知恵を学んでいるというふうに聞いております。最後は、お世話になった方々やお年寄りを招いて餅をつき、収穫祭を行っている。

子供たちは、これらの畑づくりや米づくりから自然の恵みに対する感謝、栽培するときの苦労、お世話になった方々への感謝の心、生き物への感謝というんですかね、命をいただくことも含めて、たくさんのことを学ぶのではないかなと思っております。場合によっては、失敗から学ぶこともあります。生きる力そのものを学んでいると言えると思っております。ミニトマトが苦手だった子供が食べられるようになるなど、嫌いな食べ物が食べられるようになった例もございます。

また、食育の一環として平野小学校あるいは致芳小学校では、以前に議員からご提案あった弁当の日などについての実践なども行っているようでございます。その活動から栄養バランスや彩りを考えることに加えて、自分自身が弁当をつくることでお母さん、家族からつくって

いただくことへの感謝とか、それから食材がどうやってここにあるのかということに思いをはせることなど、そして友達や家族との会話ということについても、非常にいい効果があるというふうに聞いております。

これまでも各学校において食べ物の栽培活動を通して食農教育に積極的に取り組んでまいりましたし、この食農教育の成果は、今まで申し上げましたように食や農業への関心を高めるばかりでなく、豊かな心や思いやりの心の育成にも大きな役割を果たしており、これからも大事にしていく必要があるものだなと思っております。

2つ目の、一部でもよいので給食に使える食べ物ができないかということでございます。

議員がお話あった二井宿小の場合は、自校給食でございました。当時の伊澤校長さんは、食料自給率を、給食の自給率を60%とか90%とか数値目標を掲げて何かやられておったようなというふうに感じておりますが、当市のようなセンター方式では大変課題もあるのかなというふうに感じております。

特に各学校の取り組みのうち、給食に関することとしては、心を育む給食習慣というものを実施してございます。これ、毎年11月から1月にかけて実施しているものでございますが、例えばレインボー米の生産者をお招きして、農業の難しさとかその喜び、すばらしさなどを直接お伺いすることで、子供たちが給食の大切さ、食への理解を深めるといった取り組みを行っております。

また、卒業学年を対象に実施しておりますバイキング給食では、当日の食材を納入くださった生産者をお招きして、子供たちと一緒にバイキング給食を楽しんでいただいたり、作物をつくる上での思い、あるいは苦労話などもお聞きする取り組みを26年度から実施してございます。子供たちの感謝の心を培うことはもちろんであ

りますが、納入してくださった生産者の方々も子供たちの喜ぶ様子を間近に見て励まされた、もっと頑張ろうという強い思いを感じたというふうに聞いております。

梅津議員からご提案いただいた子供たちが栽培した作物を給食に使うという取り組みですが、これまで紹介しました各学校の取り組みをさらに一歩進めるものだと思います。また、2,300食を超える食数を補うほどの量を学校の畑から確保するということは現実的ではないということをも考えられますので、一部だけでもということも考えられるわけですが、今の調理場のシステムを考えますと、なかなか難しい面があるのかなというふうに思っております。ハードルがちょっとかなりあるかなと。収穫した作物については、先ほど申し上げましたように授業や学校行事の中で直接、子供たちが食べたり、あるいは持ち帰って家族との団らんの中で食べるといった活用を実際に行っております。そうした場合、調理場に納入される量を考えると、量的にはそんなに多くはないのかなと、むしろ少ないのかなというふうに考えております。また、調理場が常に購入している食材と、あと学校で収穫した食材をまぜて調理することになると、粒の大きさでありますとか、例えばジャガイモとか一緒に大量に煮たりする場合にゆでかげんとか、そういうものがそろっていないと、なかなか難しいということなどもあるというふうに聞いてございます。実際にどういう作物だと利用できる可能性があるのか、量やサイズはどうなのかといったさまざまな条件もクリアすることが必要となってまいりますので、どのような課題があるのか、まず検討が必要なのかなというふうに思っております。

いずれにしても食農教育については、子供が食について考える、非常に大切な取り組みでありますので、今、学校にはさまざまな課題があつて〇〇教育というものがいっぱいあるわ

けですが、その中でも生きる力にかかわる大事な取り組みだなどと思っておりますので、今やっている活動をしっかりと吟味して行っていくことが大切だというふうに考えております。

○**渋谷佐輔議長** 川村直人商工観光課長。

○**川村直人商工観光課長** それでは、私のほうから、平成25年度から取り組んでまいりました実践型地域雇用創造事業の成果についてご説明をさせていただきます。

この事業につきましては、平成25年の2月に9団体で長井市雇用創造協議会というものを設立いたしまして、協議会が提案した実践型地域雇用創造事業について厚生労働省のほうから事業認可、そして委託を受けて実施をしてきたものでございます。事業の実施費用につきましては、平成25年度で約2,300万円、平成26年度は3,900万円、今年度、平成27年度につきましては、現段階で約3,600万円というような事業規模で事業を実施していけるところでございます。

次に、事業の内容でございますが、実施した事業につきましては4つのメニューに分かれてございます。まず1番目が雇用の拡大メニューということで、これについては事業主向けということで、事業拡大や雇用機会の創出につながる事業で6種類のセミナーを実施しているところでございます。次に2番目でございますが、人材育成メニューということで、こちらについては求職者向けということで、人材育成セミナーやパソコンの活用スキルの向上を目指すといった、そういった就職に役立つような8種類のセミナーを実施しているところでございます。3点目といたしまして就職促進メニュー、こちらについては主には就職面談会の実施でございます。事業主と求職者のマッチングを図るために、初年度については1月に、26年度とあと今年度については年2回、それぞれ実施をしてございます。最後に4つ目、雇用創造実践メニュ

一でございますが、これは地域の特産物を使った商品開発を7種類、地域資源を生かした体験型の旅行企画を3種類、また、地域製品のPR方法や販路の拡大方法の調査等を3年間、実施をしてきたところでございます。

今申し上げました雇用拡大メニューにつきましては、4つのメニューのうち、平成25年度に延べ26の事業所、平成26年度は延べ54の事業所、今年度については延べ61事業所ということで、3年間で延べ141の事業所に受講をいただいたところでございます。

次の人材育成メニューにつきましては、平成25年度に63名、平成26年度に140名、平成27年度は146名ということで、3年間トータルで349名の方に受講いただいたところでございます。

3点目の就職促進メニューにつきましては、就職面談会を平成25年は1回開催をしておりますが、こちらについては120名にご参加をいただきました。平成26年度は2回、合計で194名の参加をいただいております。そして今年度につきましても2回を開催しておりますが、合計で151名にご参加をいただきまして、3年間トータルで465人の求職者の方に参加をいただいたところでございます。

雇用創出メニューにつきましては、3年間で馬肉ラーメン肉まん、アスパラ麺、そのほか合計で7種類の商品開発を行ってきてまいりました。また、長井らしさの体験型観光事業といたしまして、地域資源を生かしたモニターツアーということで3種類ほど実施をしてございます。

長井市がこの雇用創造事業に取り組んできた3年間が経過したわけでございますが、この各種セミナーの実施によりまして求職者の方々のスキルアップにつながりまして、事業者が求めるような人材育成ができたものというふうに思っているところでございます。また、就職面談会のほうも求職者と事業者との対話の機会を生み出すことができたということで、多くの雇用

につなげられたというふうに思っております。また、商品開発につきましては、これまでほかの分野でも6次産業化ということで推進に取り組んできたわけでございますが、開発の実現につきましては、この事業を通じて市内の飲食店を中心とした開発に携わるグループや組合が発足しまして、実際に商品製作に取り組んできた実績と販売する体制ができたということで、一定の成果を上げることができたのではないかとこのように思っております。

続きまして、3年間の雇用創造事業における雇用の創出についてご説明をいたします。

事業の結果、雇用者数をカウントするものにつきましては、雇用拡大メニュー、人材育成メニュー、そして就職促進メニューということで3つのメニューが該当するわけでございますが、それぞれ合計の各年度の就職者目標値と成果についてでございますが、平成25年度については目標者34人に対しまして実際の実績93名の就職がございました。平成26年度につきましては、目標51人に対しまして実績が122人、平成27年度はまだ集計の途中ではございますが、目標51人に対しまして現在まで実績50名となっております。3年間の合計目標値136名の計画に対しまして約2倍の265名の雇用創出を図ることができたところでございます。

次に、雇用創造事業に取り組んできた開発商品等についての事業終了後の取り扱いについてご説明をさせていただきます。

地域の産物等を生かした商品活用につきましては、馬肉商品といたしまして肉まん、総菜、秘伝豆を生かしたプリンということで、先ほど議員のほうからもありましたひみつのSOY+豆(そいず)というような名前で商品開発をした部分もでございます。また、アスパラ麺を使った商品、そしてみそとしょうゆを使用したお菓子、キクイモを使ったパン、そしてモチ米と小麦を使用した蒸しパン風の生地ということでパ

オというような名前をつけて、全部で7種類、合計19品を開発、提案してきたところがございます。これらにつきましては、開発に協力していただいた事業者の皆さんを中心に、商品の普及にこれからも努めていきたいというふうに思っております。

開発した商品の中で既に軌道に乗っているものもございまして、馬肉ラーメン肉まんにつきましては、現在6事業者で販売に携わっていらっしゃいます。イベント中心に販売をしているところもございますが、平成26年の9月以降、約5,000個の販売実績というふうにお聞きをしております。また、アスパラ麺につきましては、市内の2店舗で提供していただいております、約650食ということで販売の実績となっております。みそ、しょうゆを使ったお菓子につきましても、市内の洋菓子店1店舗で販売を開始しております、こちらについては2種類それぞれ約500個の販売実績となっております。これらの開発商品、いわゆるレシピにつきましては、事業終了後は希望される方々に広く公開をしていきたいというふうに考えております。

また、モニターツアーを実施した体験型の観光商品につきましては、この4月から事業を開始いたしますやまがた長井観光局のほうに引き継ぎまして、実際に旅行商品として販売をしていきたいというふうに計画をしているところがございます。

その他の長井市の特産物や開発商品を長井ブランドということで確立をしていくために、大都市圏においても各種出店イベントへのPR並びに販路拡大を行ってきておりますので、このノウハウにつきましてもテキスト化をいたしまして、事業者の方々に提供をしていきたいというふうに思っております。

このように雇用創造事業の成果につきましては、今後、地域の事業に広く活用していただいで収益増加と雇用拡大につながるように、窓口

ということでは、市の商工観光課が引き継ぎまして取り組んでいくこととしております。

説明は以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 青木邦博建設課長。

○**青木邦博建設課長** 私からは、市内の河川敷整備、特にかわまちづくりの考え方についてお答えいたします。

かわまちづくりとは、梅津議員がおっしゃるとおり、河川空間とまちの空間の融合が図られた良好な空間形成を目指す取り組みと定義されております。また、かわまちづくり支援制度は、観光などの活性化につながる景観、歴史、文化等の河川が有する地域の魅力という資源や地域の総意としての知恵を生かして、地方公共団体や地元住民との連携のもとで立案された実現性の高い河川や水辺の整備、利活用計画による良好なまちと水辺が融合した空間形成の円滑な推進を図る制度であるとされております。

かわまちづくり支援制度で受けられる国の支援でございますが、ソフト面では1つにかわまちづくり実現に向けて必要となる調査と検討、2つ目に全国の優良事例等の情報提供、3つ目に地域のニーズに対応した河川敷の多様な利用を可能とするための措置がございまして、ハード面としては治水上及び河川利用上の安全・安心に係る河川管理施設の整備があります。これらは全て国費で実施していただくということになりますが、河川管理施設以外の利活用施設については長井市が整備することとなります。そのために地元の方の利活用が大前提ということになります。国土交通省山形河川国道事務所からは、かわまちづくり支援事業の対象となる留意点としまして、地域の総意としての知恵を生かした計画であること、利活用方策が地域において明確となっていること、施設の維持管理に地域の協力が得られること、この3点をアドバイスとしていただいております。白川の河川敷につきましては、今後、地元の皆さんと十分に

協議した上で計画づくりを行う必要があるというふうに考えております。

市内には国土交通省管理の最上川と白川、そして県管理の置賜野川がありますが、市とかわまちづくり推進協議会で行ったながいフットパスウォークのイベント、野川清流ウォーキングや最上川の山の港町めぐり、そして白川のぐるっと“とよだ”めぐりなどはまさにこれらを連携した取り組みだと考えております。平成27年度のイベントでは総勢115人の方が参加されました。また、置賜野川の河川敷にはいきものふれあい公園、パークゴルフ場、野川ふれあい公園等がありますが、いずれも多くの方のご利用いただいております。今後とも川とまち、川との連携がますます深まり、にぎわいの創出につながるよう取り組んでまいりたいと考えております。

私からは以上です。

○**渋谷佐輔議長** 9番、梅津善之議員。

○**9番 梅津善之議員** 時間もないので、皆さんパネルが見たくてうずうずされておりますので、一つパネルを。実はこの質問をする前に、雇用創造協議会にお尋ねさせていただきました。先ほど商工観光課長からも説明あったと思いますひみつのSOY+豆（そいず）という秘伝大豆を使った豆乳プリンだそうです。市内には約20ヘクタールではきけない乾燥の秘伝大豆をつくる面積がございますし、エダマメでつくっている生産者も相当数ありまして、それも四、五町歩になっております。その秘密っていうのはなかなかおしゃれな言葉で、芸工大の学生が考えていただいたなんてお話もお聞きいたしましたし、秘密の1つは無農薬で育った長井の野菜と果物を使ったカラフルなソースを使うという、素晴らしいデザインだと思いますし、秘密の2つ目というのは長井の伝統の秘伝大豆100%の豆だから、豆乳プリンだと、こういう素晴らしいパネルでございました。

さらには秘伝大豆っていうのを紹介されているのは、長井で育つ秘伝大豆は香り、甘み、大きさ、味わい、どれもすばらしいという。特に大きさについては大豆の中でも日本一のボリュームとされている。もっとすばらしいのは、大豆たんぱく質は人の体に必要なアミノ酸がバランスよく含まれていて、血中のコレステロールの低下の作用とか肥満の改善などの効果が、生理的機能がたくさんあるということを非常に謳われてるわけですね。いらいらしたり何かしてるときは、こういうことを食べたりすると落ちつくのではないかなと私自身思っておるわけですが、さらに美容にもいいということです。こういうものを商品化して、長井の特産物としていけたら非常に私はいいんではないかなと思いますし、何といたってもここに取り組みされた2年と9カ月、ことし3月で終了するその雇用創造協議会の皆様の思いというものを、やっぱり市民なりいろんな方に伝えて、これから産業なり雇用の創出につなげていくべきだと私は思っておるんですけども、その辺、市長どようにお考えかお尋ねしたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** ひみつのSOY+豆（そいず）につきましても、私も試食しました。大変おいしくて、なおかつパッケージなども芸工大の学生にお願いして、これも厚生労働省の補助事業だからできたんですね。相当お金かけてやりました。問題なのは、これ市でやってるんじゃないんですよ。市内の農家の協力があって、あるいはレストランとか、さまざまなお菓子などを出しているそういう方々の協力があって、こういう新しい食品つくったわけですね。それを雇用創造協議会ではレシピは公開しますっていつてるんですよ。ですから、どうぞ皆さん頑張ってくださいとお願いしてるわけですね。

今後どうするんだってよく聞かれますが、こ

れこそやっぱり市民の力ですよ。これ行政だっ
てつくれるもんじゃないじゃないですか。した
がって、私どもとしては観光交流センターが来
年の春からスタートいたします。また、場合
によっては菜なポートで、あるいは市内のスー
パーさんとかで扱っていただくっていうことも可
能だと思えるんですよ。それについて売りたい
からということ、やっぱりレシピを生かして
商品化した事業者さんがあれば、私ども商工観
光課も含めて地場産業振興センター、協力しな
きゃいけないと思っています。でも、どうする
んだと、市は、いうことではないと思えるん
ですよ。私は、そこをやっぱり依存してしまっ
ては6次産業化っていうのは絵に描いた餅なん
ですよ。だって、農家とか農事組合法人ある
いは食品加工業者の皆さんがいろいろ今ま
でもやってきたわけですから、ぜひそうい
った視点で梅津議員からもそういう方々
にご指導いただきたい。もちろん新しい
観光交流センターでは扱っていただきたい
と思っています。

○**渋谷佐輔議長** 9番、梅津善之議員。

○**9番 梅津善之議員** 私は、別に市でしろなん
ていうことは全然申しでないわけございま
して、ぜひこういうことを足がかりに市民が
いろんな開発したものを商品として販売なり
されて、それが雇用に結びつくような手助
けと一緒にやってできればなという思いで
おりますので、ぜひその辺をご理解いただ
いた上で、今まで雇用創造協議会で開発さ
れたものを含めて、市の特産物づくりに一
緒になって努力してまいりたいと思いま
すので、今後ともよろしくお願ひいた
したいと思います。以上で終わります。

安部 隆議員の質問

○**渋谷佐輔議長** 次に、順位14番、議席番号14番、

安部 隆議員。

(14番安部 隆議員登壇)

○**14番 安部 隆議員** 今議会一般質問最終日、
そして最後の質問であります。この3日間通し
ましてそれぞれの議員が発言をしましたが、残
すところ一人というようなことでございます
ので、ひとつ暫時の間ご協力を賜りたいと、こ
のように思います。

さて、平成28年度長井市の予算が過去最大の
140億8,500万円の前年対比6.3%、8億3,100万
円の予算が示されました。過去において財政改
革、再建と15年に及ぶ財政改革、健全化に取り
組み、財政改革をなし遂げてきました。一方、
この間、市民は生活関連にかかわる道路、水路
など多岐の要望や生活環境にかかわる整備を我
慢をしながら耐えてきたのも事実であります。
過去最大の予算規模は市民の要望、請願に少な
からず応えられるものと期待をしていると思
います。

しかしながら、新年度予算の概要では普通建
設事業は大きく伸びています。相も変わらず、
補助事業が大きく占めています。新年度予算歳
入に財政調整基金繰入金5億4,000万円繰り入
れられています。繰入金額は大きい割に単独事
業など市民生活にかかわる事業が目立たない中
央地区においては、社会資本整備総合交付金事
業、都市再生整備、関連社会資本整備等で道路、
側溝、消雪など整備が実施されております。中
央地区以外の他地区では補助事業もなく、単
独事業は難しいとの見解です。こうしたこと
でよろしいのでしょうか。長井市の活力は均
衡した中で保たれ、発展していくべきと思
います。計画的に単独事業を取り入れ、事業
を展開していくべきと思っております。

新年度予算で主な事業である社会資本整備
総合交付金事業においても27年度補正予算第
11号では、社会資本整備総合交付金事業
での関連する予算が減額されております。
減額された総